



周産期センターの見取り図を使用して机上訓練中です
左から

小児科医師 篠原修統括部長、山田ゆう子看護長、
新家史子看護師、産婦人科医師 石田時一副院長
稲生智代看護課長、伊藤容子助産師

■2018. 1. 30

院内の災害対策訓練を実施しました。

目的は耐震が充分ではない、周産期センターの避難方法の確認です。訓練日に実際に入院されている妊婦さん・褥婦さんの情報を活用して机上模擬避難訓練を実施しました。

周産期センターでは、「赤ちゃん」と「母親」の誘導が必要となります。それは一律ではなく、母児共に入院中のケースや、治療継続のために赤ちゃんだけをお預かりしているケースがあり、個々の対応が必要なこと。分娩中のケースでは、分娩台ごと移動が可能なこと。同階の病棟はじめ集中治療室の応援が必須であること等々、多くの発見をした訓練でした。

周産期センターは一般病棟以上の配慮が必要だと再認識しました。

さあ、明日からも患者さんのため、病院職員のために頑張ります。